

医学教育分野別評価  
琉球大学医学部医学科  
年次報告書  
2022 年度

評価受審年度 2017 (平成29) 年

令和4年8月

琉球大学医学部



## **評価受審年度 2017（平成29）年**

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.11

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.34

はじめに

本学医学部医学科は、2017年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2018年11月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.34を踏まえ、2022年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2021年4月1日～2022年3月31日を対象としている。

**医学教育分野別評価 琉球大学医学部医学科 年次報告書  
令和4年度**

評価受審年度 2017（平成29）年

今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命</b>	<b>1.2 大学の自立性および学部の自由度</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
・ 導入が計画されている「沖縄特色科目」の確実な履行が期待される。	
<b>現在の状況</b>	
・ 3年次学生に対して「沖縄特色科目」を継続して実施している。	
<b>今後の計画</b>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
・ 資料1.2.1：シラバス（沖縄特色科目）	

今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命</b>	<b>1.3 学修成果</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
・ 学修成果を教員、学生に十分に周知すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
・ 入試説明会、入学オリエンテーション、授業など、あらゆる機会を捉えて周知をはかる努力を続けている。	
<b>今後の計画</b>	
・ 主に、教員を対象として、学修成果ならびに学修成果基盤型教育の理解を深めるためのWeb視聴型のFDの準備を進めている。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.3 学修成果
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ 卒前と卒後の学修成果の関連をより明確にすることが望まれる。	
現在の状況	
・ 関連性に関する検討は進んでいない。	
今後の計画	
・ 卒後の臨床研修に関する学修成果との関連について、キャリア教育センターと医学科教務委員会・医学教育企画室の緊密な連携を計画している。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・ 卒業時コンピテンスの策定には、学生、職員など、教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。	
現在の状況	
・ 医学教育評価委員会、医学教育分野別評価対策委員会に学生が参画する規程を作成し、既に学生は参加している。	
今後の計画	
・ 使命ならびに学修成果の改訂を行う仕組みを検討する。 ・ その際に、学生が参画する仕組みを構築する。	
現在の状況を示す根拠資料	
・ 資料1.4.1：令和3年度第1回医学科医学教育分野別評価対策委員会 議事要旨	

### 今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>今後使命を改定する際には、他の医療職、患者代表者など、広い範囲の教育関係者の意見を聴取することが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>使命・学修成果の改訂を行う仕組みを構築する段階である。</li> </ul>	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>改訂する委員会のメンバーに誰を入れるべきか検討を開始する予定である。</li> </ul>	
現在の状況を示す根拠資料	

### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業時コンピテンス、コンピテンシーを各科目の教育に十分に反映させるべきである。</li> </ul>	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>各科目で達成される学修成果を表にまとめてマトリックス表を作成した。</li> <li>すべてのコンピテンスが組み込まれていることは確認した。</li> </ul>	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>マイルストーンの作成ならびにコンピテンシーとの関係はこれから議論を始める予定である。</li> <li>基礎医学、臨床実習において身に着けるべき態度・技能を洗い出し、どの学年、どの実習で学ぶかを検討する予定である。</li> </ul>	
現在の状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> <li>資料2.1.1：科目・コンピテンシー対応表</li> </ul>	

**今後改善が見込まれる項目**

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.2 科学的方法</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
・ 臨床で活用するための体系的な EBM 教育の強化を図るべきである。	
<b>現在の状況</b>	
・ 現在進んでいない	
<b>今後の計画</b>	
・ 必要となる EBM の基礎的概念の教育、実践をどのように組み入れるか検討を始める予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

**今後改善が見込まれる項目**

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.4 行動科学と社会医学・医療倫理学と医療法学</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
・ 行動科学の体系的なカリキュラムを整備すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
・ 精神医学、内科学、生理学、解剖学など複数の講座で、行動科学の講義を分担実施している。全体の統轄は、精神医学の近藤教授が行い、座学において基本的知識を習得し、TBL などアクティブラーニングを活用して実施している。	
<b>今後の計画</b>	
・ 授業アンケートなどを通じて学修成果が得られているかを検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
・ 資料2.4.1：シラバス（行動科学）	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学・医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを定義し、行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムを検討することが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員を中心に取り入れ、改訂しているのが現状である。</li> </ul>	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行動科学にかぎらず、将来必要になると考えられる事項を検討する仕組みの構築を急いでいる。</li> </ul>	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての学生が、健康増進と予防医学を実際に体験できるようにすべきである。</li> </ul>	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラム見直しの中で、体験できるプログラムをどれに設定するかを話し合っている。</li> </ul>	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ 垂直的統合科目を開講する上での問題点を議論して、垂直的統合科目を拡充することが望まれる。	
現在の状況	
・ 多くの科目で垂直的統合が実施されている。	
今後の計画	
・ カリキュラム全体の統一性が取られているかを今後検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
・ 資料2.6.1：シラバス（TBL）	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・ 教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会の構成委員として、学生の代表を含めるべきである。	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教務準備委員会、医学教育評価委員会、分野別検討委員会へは参加しており、教育カリキュラムの評価、改訂方針決定のメンバーではある。</li> <li>・ 現在、最終的なカリキュラム決定の場である教務委員会への学生の参加の形態を検討している。</li> </ul>	
今後の計画	
・ 教務委員会、学生生活委員会への学生の参画を含めて検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料2.7.1：琉球大学医学部医学科医学教育評価委員会要項</li> <li>・ 資料2.7.2：琉球大学医学部医学科医学教育分野別評価対策委員会規程</li> </ul>	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.7 プログラム管理</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に、教員と学生以外の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入れる方向で調整している。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育の関係者の代表の人選を急いでいる。</li> </ul>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識、技能、態度の領域に合致した評価を学修段階に応じて系統的に実施すべきである。</li> <li>・ 臨床実習現場においてさまざまな評価を確実に実施すべきである。</li> <li>・ 学生の成長に関する記録を蓄積して、形成的評価に活用すべきである。</li> <li>・ 疑義申し立てについて、医学部として組織的な対応の仕組みを構築すべきである。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床実習においては、全ての評価に態度・技能の項目を入れている。</li> <li>・ 基礎科目においては、実習中、レポートを態度・技能の評価に加味することで、共通理解は得られた。 評価の割合に関しては現在検討中である。</li> <li>・ 卒業時まで達成すべき技能に関して、臨床医学分野ではほぼ絞りこめた。ccEPOCなどを活用して達成度評価が可能かどうかを検討中である。</li> <li>・ 基礎医学の中で学ぶべき臨床医学に必要とされる技能については、現在検討中で、学生カルテなどを用いて評価に活用する要諦である。</li> <li>・ 疑義申し立てに関しては既に、規則に盛り込まれており、各教科単位で適切に対応するシステムが稼働している。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生カルテを導入し、低学年からの態度・技能の評価を個人単位で細かく出来</li> </ul>	

<p>るようなシステム作りを検討し、システム導入に向けて全学レベルでの話し合いを始めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ mini-CEX など多面的評価をいくつ導入出来るか検討中である。</li> </ul>
<p><b>現在の状況を示す根拠資料</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料3.1.2：指導医による学生評価票</li> </ul>

### 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。</li> <li>・ 基礎医学での各科目の評価方法、合格基準を統括的に検証、評価し、改善する仕組みを構築することが望まれる。</li> <li>・ 外部評価者を活用することが望まれる。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎系の科目においては、多くは統合科目であり、互いに試験問題は公開している。しかし、妥当性の検証は十分には行われていない。</li> <li>・ 総合試験 I～III に関しては、ブラッシュアップを行い、信頼性・妥当性の検証は行われている。</li> <li>・ 臨床実習後 OSCE には、外部委員（臨床教授、臨床准教授）が加わっている。</li> <li>・ 学外実習期間にあっては、学外の先生（多くは、臨床教授、臨床准教授）が評価を行っており、最終評価に当たっては、学内教員の評価と比較検討され総合的な学生評価が行われる仕組みが構築されている。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に、座学の評価にあたって、評価の妥当性について、系統的に行われる仕組みの構築を検討する。</li> <li>・ そのほかの科目における外部評価者導入は今後検討する。</li> </ul>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料3.1.1：PCCOSCE評価表</li> </ul>	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.2 評価と学習との関連</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピテンシーの各項目に関連づけて科目での到達レベルを設定し、目的とする。学修成果の達成を保証する評価について検討し実践すべきである。</li> <li>・評価のフィードバックを確実に言い、学生の学修を促進すべきである。</li> <li>・低学年から臨床実習に至る過程において、学生の成長に関する記録を蓄積して、形成的評価に活用すべきである。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピテンシー（小項目）と各科目との対応表（マトリックス表）は作成終了している。</li> <li>・臨床実習においては、診療科毎にフィードバックを掛けている。</li> <li>・基礎医学の科目においては、中間試験を行って形成的評価と共に、フィードバックを掛けている。</li> <li>・臨床実習の前、前半の終了後に総合的なフィードバックを掛けている。</li> <li>・学生カルテの準備を進めている。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実効性のあるマイルストーンとコンピテンシーとマイルストーンの関連付けを検討する方向で調整している。</li> <li>・基礎系科目でのフィードバックを進める体制を構築する。</li> </ul>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.2 評価と学習との関連</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・形成的評価を繰り返し言い、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎科目の一部に置いては、中間試験、ミニテストを行い、理解が進んでいない学生にはフィードバックを繰り返している。</li> <li>・臨床実習においては、実習単位ごとにフィードバックを行っている。</li> <li>・総合試験の成績不良者は面談を行って、指導を加えている。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ カリキュラムとして、中高学年でのキャリアガイダンス教育の導入が望まれる。	
現在の状況	
現在進んでいない	
今後の計画	
キャリア教育の導入をどのようにカリキュラムに組み入れるか検討を始める予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
・ 資料4.3.1：総合講義の日程表	

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.4 学生の参加
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・ 今後、教育プログラムの策定、管理および学生に関する諸事項に関わる各種委員会に学生の参画を推進すべきである。	
現在の状況	
・ 医学教育評価委員会、分野別検討委員会、教務準備委員会にメンバーとして参加している。	
今後の計画	
・ 教務委員会、学生生活委員会への参加を検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料4.4.1：令和3年度第1回医学科医学教育評価委員会 議事要旨</li> <li>・ 資料1.4.1：令和3年度第1回医学科医学教育分野別評価対策委員会 議事要旨</li> <li>・ 資料4.4.3：令和3年度第1回カリキュラム作成専門部会 議事要旨</li> </ul>	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員がカリキュラムの全体像を十分に理解するための適切なシステムを確立すべきである。</li> <li>・ カリキュラムの実施を確実に進めるよう、教員それぞれのエフォート率を組織的に管理すべきである。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍であり、FD が少ない。</li> <li>・ 医学教育に関する事項（琉球大学医学部の教育方針、医学教育の流れ、コアカリキュラムなど）についての Web 受講型の FD の準備を進めている。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.1 施設・設備
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習環境を定期的・組織的に見直す体制を構築することが望まれる。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業アンケート、指導教員との面談、評価委員会を通じて学生からの要望を取り入れている。</li> <li>・ 学生生活委員会を中心に教育設備、教育資源の充実に関する話し合いが行われている。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 系統的に評価、要望を集約する仕組みを構築する予定である。</li> </ul>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.5 教育専門家
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・学内外の教育専門家を活用し、すべての教職員の教育能力向上をさらに図ることが望まれる。	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学のFDで教育活動に関するFDが開かれている。</li> <li>・医学教育に関する事項（琉球大学医学部の教育方針、医学教育の流れ、コアカリキュラムなど）についてのWeb受講型のFDの準備を進めている。</li> </ul>	
今後の計画	
・	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学教育評価委員会は、カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩、課題の特定と対応についての評価を早急に遂行すべきである。</li> <li>・医学科の教学IR機能を実働させ、評価システムの充実化を図るべきである。</li> </ul>	
現在の状況	
・教学IRに関しては、全学組織の理解を得ることが極めて困難な状況である。	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学全体の取り組みとして、教学IRの充実を強く要望を続ける。</li> <li>・ccEPOCなどを活用して、技能・態度評価のデータをもとに、カリキュラムの評価が行える体制を構築する方向で進めている。</li> <li>・教務情報システム、入試システムを用いて、個人情報情報を消去した形でプログラム評価を進める体制の構築を模索している。</li> </ul>	
現在の状況を示す根拠資料	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>7. プログラム評価</b>	<b>7.1 プログラムのモニタと評価</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期間で獲得される学修成果、社会的責任について、プログラムを包括的に評価することが望まれる。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業時の成績、卒後の成績、学生の進歩を活用できないかと模索している。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学全体の取り組みとして、教学 IR の充実を強く要望を続ける。</li> <li>・ ccEPOC などを活用して、技能・態度評価のデータをもとに、カリキュラムの評価が行える体制を構築する方向で進めている。</li> <li>・ 教務情報システム、入試システムを用いて、個人情報情報を消去した形でプログラム評価を進める体制の構築を模索している。</li> </ul>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>7. プログラム評価</b>	<b>7.2 教員と学生からのフィードバック</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 系統的に教育プログラム評価のための学生・教員からフィードバックを収集し、分析・対応すべきである。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生からの授業アンケート結果はあるが、プログラムに関してそれを評価するシステムが実質的には稼働していない。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業時にコンピテンスの達成状況に関してアンケートを実施し、プログラムに関するフィードバックを求める。</li> <li>・ 教員からのアンケート、患者、コメディカルなど 360 度評価を進める予定である。</li> <li>・ 学年末に学生からフィードバックを効率よく網羅的に求めるシステムを企画している。</li> </ul>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・ 教育プログラム評価のための教員や学生からのフィードバックをプログラム開発に活用する仕組みを構築することが望まれる。	
現在の状況	
・ 学生から提出されたアンケートにより、一部でカリキュラムの改訂につながっているが、このシステムで十分とは判断していない。	
今後の計画	
・ アンケート、学生カルテなどから情報が集約されるようになったら、それを元にかリキュラム改訂につながるシステムを構築する予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・ 使命、学修成果、カリキュラム、および教育資源の観点から、学生と卒業生の実績に関するデータを収集し、分析すべきである。	
現在の状況	
・ 卒業時成績、留年率などは集積されている。 ・ 全学的取り組みの中で、卒業生への調査を行うことが決まっている。	
今後の計画	
・ 学生成績、国家試験結果などを活用して実績を評価する方法を模索中である。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生の実績に関するデータを収集し、その結果を学生の選抜、カリキュラム立案、学生カウンセリングについて、入試委員会、教育委員会等へフィードバックを確実に提供することが期待される。</li> </ul>	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ データの収集方法の検討中である。</li> </ul>	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学の教学 IR との連携を強め、実績に基づく改訂・改善の方法を検討する予定である。</li> </ul>	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学教育評価委員会が具体的に活動を行い、教育課程およびプログラムの評価結果を公開することが望まれる。</li> <li>・ カリキュラムに対して他の関連する教育の関係者からフィードバックを求めることが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公開する情報を吟味できていない。</li> <li>・ 関連する教育の関係者からのフィードバックは受けられていない。</li> </ul>	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公開して意味のある状態にしてから公開の予定である。</li> <li>・ 他の関連する教育の関係者からのフィードバックを受け取れる体制の構築が必要であると考えている。</li> </ul>	
現在の状況を示す根拠資料	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>8. 統轄及び管理運営</b>	<b>8.1 統轄</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
・統轄業務とその決定事項について、プロセスも含めた情報公開の一層の推進が望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
・各教授が講座に持ち帰って報告している。	
<b>今後の計画</b>	
・医学研究科（医学部医学科）執行部を中心に教授会の決議事項、重要事項の公開に関する取り組みを開始する。特に教務関係の決定事項について。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	